

平成 29 年度の流域連携テーマ・イベント等の活動成果

1-1 流域連携テーマ

流域連携テーマと解決手法を以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
ごみ・流木	海部会 WG を中心に実施するごみ・流木に関する検討のうち、「ごみマップ」をベースにして成果を公開
土砂	矢作ダムの上砂を海へ運ぶ「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしくみを形成
木づかい	山部会 WG で検討されている「木づかいライブ・スギダラキャラバン」や「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ取り組みの展開

1-2 平成 29 年度の活動成果

ごみ・流木

- ・22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカッション」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」の見学など“ごみを通じて環境を学ぶことができた。(第 34 回海部会 WG)
- ・愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」に参加し、矢作川支川(猿渡川・家下川)のごみの実態確認、関係機関(国、NPO 等)の取り組み、参加者によるワークショップ(グループ討議)を通じて、参加者がごみを減らす必要性について再認識した。(2017. 11. 25 岡崎市にて開催)



藤前干潟の清掃活動



海ごみ減らそうフォーラムの開催状況

土砂

- ・阿摺ダム下流(ソジバ)におけるアユの生息環境改善実験を視察し、河床のアーモコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行った。礫置き区(矢作ダム底の礫)で、アユおよび底生動物(現存量)が増加していることがわかった。(第 38 回川部会 WG、第 44 回海部会 WG)
- ・市民会議では、天竜川における竹いかだ下りに注目して、川のいかだ下りについて議論され、同時に市民が砂を運べば、自然の働きの大切さがわかるという意見が出た。これは、過年度に議論された「砂の駅」構想につながるものである。(第 8 回市民会議)



阿摺ダム下流の現地視察実施状況



竹いかだ下り(竹林の利活用)

木づかい

- ・矢作川感謝祭（2017.9.2 開催）において、流域圏懇談会として木づかいの場を提供した。根羽村森林組合が中心となって「動く木のおもちゃ」を展示した。そこはブレイスメイキング（場所の力づくり）により多くの親子が集まる空間になっていた。なお、根羽村森林組合では、今年度木づかいに関するイベントを約 40 回開催している。

（木づかいに関する情 <http://nebaforest.net/mono/mono.html>）

- ・アンフォーレクールチョイスフェス（2017.8.19～20 安城市）、あそべるとよた 4days・いなかとまちの文化祭（2017.11.25 豊田市）では、根羽村森林組合が中心となって木づかいを推進した。特に、根羽スギを利用した本箱と図書のコラボレーション“どこでもライブラリー”においては、多くの市民が本棚作りを経験した。
- ・昨年度の全体会議で配布した「流域ものさし」の活用実績と今後の活用方法について意見交換を行った。（第 43 回山部会 WG、第 8 回市民会議）

2 流域連携に関するイベントの活動成果

(1) 事例集交流会 2017（2017.4.15 根羽村）

山村再生担い手づくり事例集に掲載された団体の代表者が現況を報告し、意見交換を行った。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、大変有意義なイベントとなった。

(2) 矢作川感謝祭（2017.9.2 豊田市）

これまでは、豊田市民を対象とする川のイベントだったが、今年度は山部会の部会員も実行委員会に加わり、参加団体には矢作川の上下流の農業、林業といった山の関係者も参加する流域を対象としたイベントに拡大した。

(3) 海ごみ減らそうフォーラム（2017.11.25 岡崎市）

愛知県主催の本フォーラムは、フィールドワークとして、矢作川支川の猿渡川と家下川で川ごみの実態を視察した。その後、環境省における補助金制度、国土交通省の川ごみの対策、JEAN による奈佐の浜プロジェクトの活動報告、参加者によるワークショップが行われた。懇談会のメンバーも多く参加した活発な意見交換会となった。



矢作川感謝祭における木づかい推進



根羽スギを利用した本箱づくりの様子



流域ものさしの活用方法の検討



事例集交流会の様子



矢作川感謝祭の実施状況



海ごみ減らそうフォーラムの実施状況